

科目名	ダイバーシティと法				
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n) を参照		
開講期	秋学期	開講学部等	法学部	配当年次	2 年次
教員名	來住南 桃			単位数	2 単位

授業概要／Course outline

現代社会は、障害、人種・民族、国籍、宗教、年齢など、さまざまな属性をもつ人々によって構成されている。こうした多様性（ダイバーシティ）を尊重し、すべての人が社会に包摂される（インクルージョン）ためには、法制度がどのような役割を果たすべきだろうか。

本講義では、「平等」や「差別」をめぐる法理論を中心に検討する。まず、近代法が前提としてきた「普遍的主体」の問題を、男性学（Masculinity Studies）の視点から批判的に検討する。その上で、インターセクショナリティ（交差性）、批判的人種理論、障害学（ディスアビリティ・スタディーズ）などの理論的枠組みを導入する。また、ニューロダイバーシティなど近年注目される概念についても取り上げる。

さらに、企業や組織におけるDE&I（Diversity, Equity & Inclusion）の実務的展開についても検討し、理論と実践の架橋を試みる。受講生がダイバーシティと法の関係を理論的に理解し、包摂的な社会のあり方を構想できる力を養うことを目指す。

※なお、ジェンダー・セクシュアリティに関する問題は、春学期開講の「ジェンダーと法」で詳しく扱われるため、本講義では主にジェンダー以外の多様性の軸を中心に検討する。ただし、インターセクショナリティの観点から、ジェンダーと他の属性の交差については適宜言及する。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

・ICTを活用した授業（形態：遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））

各テーマの終了後に、補足説明や質問回答を行うオンデマンド動画（15分程度×6回、計90分相当）を配信する。

授業内容・授業計画／Course description・plan

本講義では、前半で平等・差別に関する法理論と「普遍性」への批判的検討を行い、後半で具体的なテーマやDE&Iの実務について検討する。なお、講義の進捗状況や受講生の関心に応じて、内容を変更することがある。

【授業計画】

第1回：イントロダクション—ダイバーシティと法 ダイバーシティ（多様性）の概念と、法との関係について概観する。

第2回：平等の法理論 平等概念の基本的な考え方、直接差別と間接差別の類型を学ぶ。

第3回：「普遍性」の批判的検討—男性学の視点から

近代法が前提とする「普遍的主体」の問題を、男性学（Masculinity Studies）の視点から批判的に検討する。

第4回：インターセクショナリティ(1)—理論の誕生と展開 キンバリー・クレンショアの議論を中心に、インターセクショナリティの理論を学ぶ。

第5回：インターセクショナリティ(2)—法への応用 インターセクショナリティの視点から、法の課題を検討する。

第6回：批判的人種理論—人種の社会的構築と法 批判的人種理論（Critical Race Theory）の基本的な考え方を学ぶ。

第7回：障害学と法—障害の社会モデルと合理的配慮 障害学（ディスアビリティ・スタディーズ）の視点から、障害と法の関係を検討する。

第8回：ニューロダイバーシティ—多様な脳・認知と法 ニューロダイバーシティの概念と、法・社会における意義について検討する。

第9回：移民・外国人と法 移民・外国人と法の関係を検討する。

第10回：宗教・文化的多様性と法 多文化主義をめぐる議論と法の関係について検討する。

第11回：複合差別の理論と実践 インターセクショナリティの視点から、複合差別の問題を検討する。

第12回：DE&Iの理論と実務(1)—企業・組織における展開 企業・組織におけるDE&I（Diversity, Equity & Inclusion）の展開と法的基盤について検討する。

第13回：DE&Iの理論と実務(2)—課題と批判的検討 DE&I施策の課題や限界について批判的に検討する。

第14回：総括—包摂的社会と法の課題 講義全体を振り返り、ダイバーシティと法の課題について考察する。

★オンデマンド授業（15分×6回、計90分相当）

各テーマの終了後に、学生からの質問への回答や補足説明を行うオンデマンド動画を配信する。配信予定は以下のとおり（詳細は授業内で周知する）。 ・第1回配信：平等の法理論・男性学に関する補足・質問回答 ・第2回配信

：インターセクショナリティに関する補足・質問回答 ・第3回配信：批判的人種理論・障害学に関する補足・質問回答 ・第4回配信：ニューロダイバーシティ・移民・宗教に関する補足・質問回答 ・第5回配信：DE&Iに関する補足・質問回答 ・第6回配信：定期試験の解説

事前・事後学修／Preparation and assignments

〔事前学修として〕 各回のテーマに関連する文献や資料について、事前に配布するものを読み、基本的事項を理解しておくこと。

〔事後学修として〕 授業内容を復習し、自分なりの考えを整理すること。毎回の授業後に感想・コメントを提出すること。

事前学修と事後学修を合わせて約180分を目安とする（全体で2,700分程度）。上記内容を確認して、しっかりと事前・事後学修を行うこと。

授業の到達目標／Expected outcome

①平等・差別に関する法理論の基本的な考え方を理解できる。 ②近代法の「普遍性」の問題を批判的に検討できる。 ③インターセクショナリティ、批判的人種理論、障害学などの理論的枠組みを理解できる。 ④DE&Iの実務的展開とその課題について理解できる。

身につく資質・能力／Competencies to be attained

・主体性

専門知識・専門技能

【法学部 法律学科】

・法律学・政治学の基礎知識

【法学部 法政策学科】

・法律学・政治学・政策学の基礎知識

履修上の注意／Special notes, cautions

本講義では、差別やマイノリティに関するセンシティブな話題を扱う。受講生は、異なる立場や経験をもつ人々への敬意をもって講義に参加すること。

ジェンダー・セクシュアリティに関する問題については、春学期開講の「ジェンダーと法」で詳しく扱われるため、併せて履修することを推奨する。

評価方法／Evaluation

平常点20%、期末試験80%で評価する。

平常点は、原則として付加的な要素として扱う。平常点は、出席状況および毎回の授業後に提出する感想・コメントの内容によって評価する。講義の進行を妨げた場合などには減点要素として扱う可能性がある（態度が著しく悪い場合には、単位不認定の対象とする場合がある）。

期末試験は、講義内容の理解度および自分なりの考察ができていないかを評価の基準とする。

教 材／Text and materials

教科書：特に指定しない。毎回の授業で資料を配布する。

参考書：適宜授業内で紹介する。

質問や相談の方法／Instructor contact

講義に関する質問や相談などがある場合は、授業終了後か、初回授業時に伝えるメールアドレスへ連絡すること。オフィスアワー等については、第1回講義時に知らせる。